

アメリカ文化の授業開発

ーフードスタンプを批判し判断するー

M142401 杠 拓哉

M145889 辻本成貴

授業開発者の教材観

- ①米国の福祉政策に焦点をあて、子どもの既有知をゆさぶる
(貧しい人々がサクセスを求めて集まる国アメリカ)

貧しい人はかわいそう！救わなきゃ！ ⇒弱者救済政策は正しい！

BUTアメリカの社会福祉政策は「本当に」弱者を救済しているのか？

- ②アメリカのフードスタンプという福祉政策を事例に、それを批判的に考え判断させる

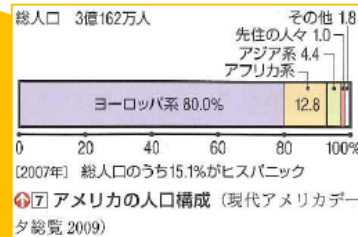
フードスタンプ：低所得者への食料面での生活保障制度

BUT実際は低所得者の生活環境は向上せず、貧しいまま。

- ③アメリカの福祉政策の批判を通して、日本の社会を分析するための視点を形成させる

「アメリカのフードスタンプ制度は続けるべきかやめるべきか」の議論を通して、日本の社会を分析(平等主義か、自由主義か)する視点を与えたい。

なぜフードスタンプが題材か



社会福祉政策
 フードスタンプ

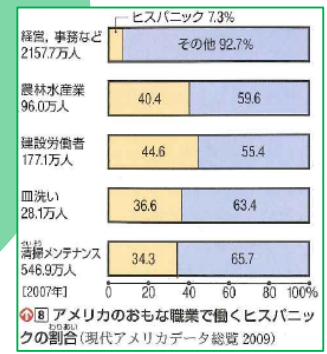


移民
 (多民族化)

福祉

大量
 消費社会
 (新自由主義)

貧しい人々
 (貧困)



本時の目標

フードスタンプ制度について①低所得のアメリカで暮らす人の食生活を保障するが、②低所得の人々の生活を改善できず、国家予算を圧迫している実態を根拠に、制度を支持するかの意見を主張できる。

獲得させたい認識

子どもたちは、社会福祉政策のような「弱者救済」政策を無条件に良いものと考えることが多い。「弱者救済政策」の代表例であるアメリカの「フードスタンプ制度」の学習を通して、低所得の人々の食生活を保障しているセーフティネットであるという光の側面だけではなく、低所得の人々の健康・生活を悪化させ、国家予算を圧迫しているという影の側面に注目させることで、日本の生活保護制度のあり方を考えさせたい。

授業の板書計画

◎フードスタンプ制度を続けるべきかやめるべきか？

MA(続けるべき)

「貧しい人でも食べ物が買えて、生きていけるから」
「これを失うとアメリカの8人に1人が生活できなくなるから」
「国民が全員生きていくことを保障するために必要だから」

MA(やめるべき)

「貧困層は貧しい生活を改善できない制度だから」
「貧困層への国家の支出が年々急増しているから」
「そもそも国がお金を出して貧困層を救う必要はないから」

＜平等主義(大きな政府)＞志向

＜自由主義(小さな政府)志向＞

◎日本の生活保護制度はどうあるべきか？

②続けるべきに立つ
パンフレット・著作

①議論を包括する本

③やめるべきに立つ
パンフレット・著作



導入

◎学習活動:「移民」「貧しい人々」「大量消費社会」をキーワードに、教科書を参照しながらアメリカ合衆国の文化・社会を概観する。

○アメリカには最近、どのような人々がやってきているのかな？

…メキシコ、西インド諸島(ヒスパニック)、アジア系の人々

○彼らはどうしてアメリカにやってきているのだろう？

自分の国よりも高い賃金と働く場所を求めているから！

○出稼ぎに来た人たちはみんなお金持ちになれるかな？



みんながお金持ちになれるわけじゃない



アメリカには、そのような貧しい人が増加していることが問題になっていて、そうした人の生活を助ける制度ができています。



SQ1 : フードスタンプってどんな制度だろう？

導入

SQ1：フードスタンプってどんな制度だろう？

○フードスタンプとは何か？

政府による低所得世帯(年収2万2千ドル以下)への食費支援プログラム。

○いくらもらえるのか？

4人家族で月600ドルを無償で支給

○何を買うことができるのか？

食料品(※嗜好品(酒, たばこ等)日用品(石鹸、紙製品等)以外)



フードスタンプは困っている人を助ける良い制度みたいだ



しかし

アメリカではフードスタンプを続けるかやめるか、という議論が起こっている

MQ：フードスタンプ制度を続けるべきかやめるべきか

展開Ⅰ (評価・価値判断の基準構築①)

SQ2：なぜ続けるべき派は制度を支持するのだろうか？

◎学習活動：フードスタンプを宣伝する広告や受給者数を見て、フードスタンプの特徴(良さ)をまとめる。

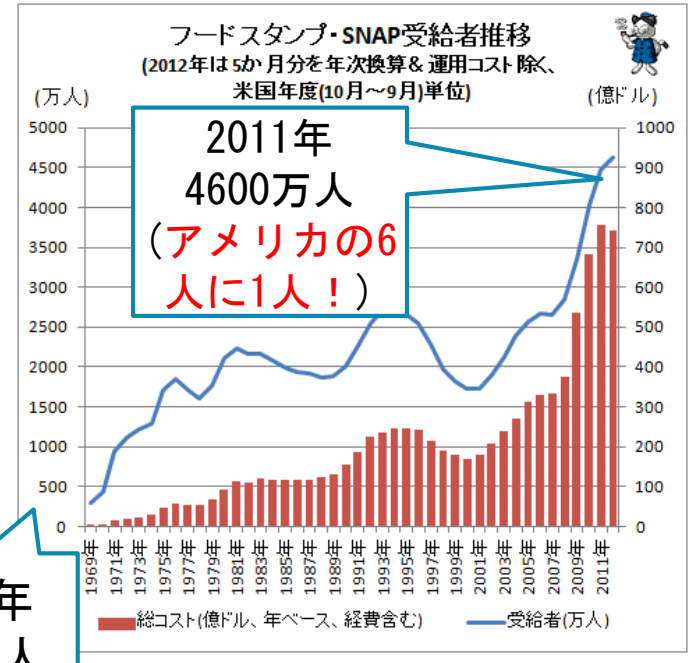
①貧しい人でも食べ物が買える！

移民・社会的弱者でも食料が買え、安心できる

②生活が苦しい人が増えている！

全てのアメリカ国民が安心して生活できる制度

○社会に不可欠なセーフティネット(平等)！



フードスタンプ・プログラムは、低所得者または無所得者が栄養のある食品を購入できるように支援するものです。フードスタンプは現金ではありません。食品購入時に銀行カードのように使用する電子カードとして給付されます。フードスタンプは、ほとんどの食料品店で使用できます。

フードスタンプ・プログラムとは？ 米国農務省より

1969年
400万人

2011年
4600万人
(アメリカの6
人に1人!)

展開Ⅰ (評価・価値判断の基準構築①)

SQ3 : 続けるべき派はどのような社会を理想としているのだろうか？

◎学習活動：フードスタンプ制度の背景にある制度が持つ思想に気付かせる。

①国民に対し国民生活を安定させる政策を行う
政府をもった社会

②貧しい人でも生活が保障されている社会



SA3 : 国が進んで国民生活を保障するための政策を行い、国民福祉(セーフティネット)を充実させていくことを目指す政府をもった社会

展開Ⅱ(評価・価値判断の基準構築②)

SQ4: なぜやめるべき派は制度を支持しないのだろうか?

◎学習活動: フードスタンプの問題点を指摘する著作や、ニュース見て、
フードスタンプの課題(悪さ)をまとめる。

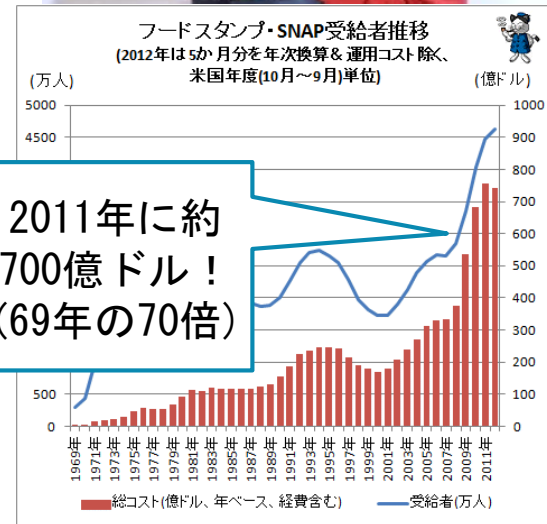
① 貧しい人の(食)生活が改善しない!

栄養不足→医療費の高騰→さらなる貧困へ

② 貧しい人が増加して、政府の支出が増える!

政府が負担する金額は年々急増

○国の多大な支出は結果的にムダ(支出の必要性なし)



展開Ⅱ(評価・価値判断の基準構築②)

**SQ5 : やめるべき派はどのような社会を理想として
いるのだろうか？**

◎学習活動：フードスタンプ制度廃止論の背景にある思想に気付かせる。

- ①財源を無駄にしないため政策を最小限にする政府をもった社会
- ②国民の自由な経済活動を尊重し生活の安定も国民にゆだねる社会

SA5 : 政策活動など国民生活への積極的な介入を行わず、企業の自由競争や国民の自助努力によって経済発展を目指す政府をもった社会

目標

導入

展開Ⅰ

展開Ⅱ

終結
板書

参考
文献

終結・板書(基準を利用した個人の選択)

◎フードスタンプ制度を続けるべきかやめるべきか？

学習活動：展開1・展開2で学習した2つの側面を根拠に自分の意見を述べる。

MA(続けるべき)

「貧しい人でも食べ物が買えて、生きていけるから」
「これを失うとアメリカの6人に1人が生活できなくなるから」
「国民が全員生きていくことを保障するために必要だから」

MA(やめるべき)

「貧困層は貧しい生活を改善できない制度だから」
「貧困層への国家の支出が年々急増しているから」
「そもそも国がお金を出して貧困層を救う必要はない」

<平等主義(大きな政府)>志向

<自由主義(小さな政府)>志向

◎日本の生活保護制度はどうあるべきか？

国民のセーフティネットとして必要

財政の圧迫や不正受給の問題

①主な参考文献(議論を包括する本)

- ・堤未果『(株)貧困大国アメリカ』岩波書店、2013年。
- ・坂井誠『現代アメリカの経済政策と格差—経済的自由主義批判—』日本評論社、2007年
- ・それぞれの主張を支持する書籍、パンフレットなど

②賛成派に立つパンフレット・著作

- ・「フードスタンプ・プログラムとは？」米国農務省
<http://origin.www.fns.usda.gov/snap/outreach/Translations/Japanese/jp-brochure-japanese.pdf> (2015年8月2日閲覧)
- ・「補助的栄養支援プログラム-SNAP(フードスタンプ)」ジョージア州
<http://dhs.georgia.gov/sites/dhs.georgia.gov/files/47.Japanese.pdf> (2015年8月2日閲覧)

③反対派に立つパンフレット・著作

- ・加藤靖子『貧困層のフードスタンプに群がる米国外食産業景気後退の足音に身構える米国民』日経ビジネスオンライン。
http://business.nikkeibp.co.jp/article/world/20110929/222898/?n_cid=nbpnbo_twbn&rt= nocnt (2015年8月2日閲覧)
- ・小林由美『超・格差社会アメリカの真実』日経BP社、2006年。
- ・教科書・資料集
- ・五味文彦他『新しい社会 地理』東京書籍、2011年。